

職員による自己評価

A環境面

利用定員と活動室のスペースは全員が「適切」と回答。一方で設備に関しては、電源確保においてコンセントが部屋の四隅にあり、延長コード等で工夫して行っている事でどちらともいえないとの回答も多かった。

B児童への支援内容

アセスメントからの支援計画の作成やプログラムの立案・展開方法、個別へのアプローチは、全員が「できている」と回答。当日の支援の内容や役割分担の打ち合わせは、必ず実施しているについても、全員が「できている」と回答。一方で関わりの中で気が付いた点の情報共有については、時間に制約があり、常に情報の共有ができたかという疑問が残る事から、全員が「どちらでもない」と回答。

C関係機関との連携

保護者・学校・主治医等との情報共有は全員が「できている」と回答。卒後に移行する事業所への情報提供は、今のところ卒業生がいない為、「いいえ」の回答が多かった。

D保護者への説明責任・信頼関係

規定・支援内容・利用者負担等について丁寧に説明は、全員が「できている」と回答。保護者からの問い合わせや、定期的な会報等情報発信も、全員が「できている」と回答。一方で、保護者会の開催等保護者同士の連携支援については、「できていない」との回答が多かった。

E非常対応

緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対策マニュアルについて保護者や職員に周知されているかについて、「どちらともいえない」との回答が多かった。虐待防止や身体拘束について、必要な対応をしているかについて、「できている」との回答が多かった。

保護者による評価

A環境面

環境面や体制については、全ての方が良いと回答。「とても手厚い」との意見の回答スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮については、どちらともいえないと1名が回答。

B児童への支援内容

9割以上の方が、個別支援計画は、ニーズや課題の分析の上で作成されている。また、活動プログラムが固定化しないように工夫されていると回答。プログラムの固定化については、どちらともいえないと1名が回答。地域・人との交流については、評価が分かれ、半数がどちらともいえないと回答。交流が無かったと2割近くが回答。その他、コロナ禍の状況で仕方ない旨のコメントや学校での交流で満足されている方、また、放デイで交流の機会はなくても良い等の意見の回答。

C事業所からの情報発信

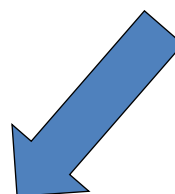
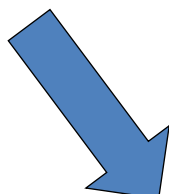
支援の内容、利用料の丁寧な説明、情報共有と共通理解、定期的な面談や助言等の支援、子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報等の定期的な発信については全員の方が良いと回答。その他、保護者会の開催等保護者同士の連携の場については、評価が分かれる。4割弱がどちらともいえないと回答。3割弱が連携の場がなかったとの回答。必要なし、コロナ禍で今は行えない、学校で連携の場があるのでなくても大丈夫、いつか開催できる事を楽しみにしている等の意見の回答

D非常対応

緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対策マニュアルについて、分からないという回答が3割弱、非常事態の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているかについて、7割近くが分からないと回答。

E満足度

全員の方が通所を楽しみにしている、事業所支援に満足していると回答。楽しめていると思いますし、体をゆっくり休めるようにも配慮していただき、有難く思います等の他、本人の変化等をより共有できるよう週2日の利用ができたらしいのにな…と感じていますとの意見の回答。



事業所内での分析

【共通点】

環境面や個別支援計画を基にした支援への取り組みに加え、支援内容等の説明や定期的な面談の実施・定期的な会報等による情報発信について評価が高かった。

非常事態の発生に伴う準備・訓練等は、分からない・できていないという認識の点で共通していた。

【相違点】

大きく相違する点は見られなかった。

分析・検討してみて…

事業所の強み

関わりについては、個々の特性の理解を大切にしている。医療面・身体面等の特徴における専門的な捉え方を共有しながら支援に繋げる意識を持って取り組んでいる点。

ご利用者を理解しようというスタッフの姿勢が、おおむねご家族に受け入れられている点。

事業所の改善点

放課後等デイサービスにおける災害時等の対応について、分かりやすいマニュアルの整備や家族への情報発信の改善を行い、更に安心して利用できる体制を整えていく。また、学校との連携については協力できる事を互いに確認し協力体制の強化を図る。

事業所の改善への取り組み

災害時の対応：学校と災害時の連携体制について確認を行うと共に、こまちとの連携体制も併せて確認しマニュアル整備を行っていく。避難訓練の実施方法等を再検討する。

マニュアル：マニュアルの周知については、情報発信の方法を再度検討し家族等に伝わりやすくする。

また、面談・懇談会等の場を利用しお知らせする。

(コロナウイルスの対応状況等勘案して会の開催方法を検討する。)

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

たんぼぼの開所から1年2ヵ月が経ちますが、日頃スタッフが利用者の成長に繋がる関わりや経験を試行錯誤しながら提供している中で、通所を楽しみにしている・配慮してくれている等の好意的な意見をいただけて嬉しく思います。

今後も、皆さんの成長を感じながら、卒業されるまでの時間を楽しく安全に過ごしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。